

平成 26 年度第 12 回霞ヶ浦自然観察会結果報告

『生き物を科学しよう！！「食べる・食べられる」の関係』を実施しました。

開催日時：平成 26 年 12 月 13 日（土）

開催場所：茨城県霞ヶ浦環境科学センター研修室および展示室

参加者：9名

今回の観察会は生き物を科学しようとして、霞ヶ浦に生息する生き物の「食べる・食べられる」（食物連鎖）をテーマに、参加者のみなさんに観察や実験を通して、より深く霞ヶ浦の生き物を理解してもらうことを主眼に行いました。

まずは生産者である植物プランクトンや、それを食べる動物プランクトンのミジンコを顕微鏡で観察しました。ミジンコの観察では、拍動する心臓や、まさに母親のミジンコからふ化して出てきたばかりの子どものミジンコを見られ、みなさん大興奮！大人の方が熱心に顕微鏡で観察する姿が印象的でした。続いてメダカが生きたミジンコを捕食する場面を観察したあと、センター初の試みであるワカサギの煮干しを使った解剖とその胃内容物の観察を行いました。なかなかコツがつかめず皆さん苦勞していましたが、ミジンコを見つけた方もいて、みなが協力しあって観察を行いました。

また鳥のくちばしの模型を使った観察では、食べ物の違いに合わせて、くちばしのかたちも鳥によって違うことを学びました。生き物が環境に合わせて多様に進化していることを実感しました。

最後は日ごろ希望の多い、魚の飼い方の説明もかねて、展示室水槽のバックヤードツアーを行いました。1階の大型展示水槽の設備と、家庭用と変わらない2階の水槽をみてもらい、家庭用の水槽でも上手に飼えば魚を長生きさせることができること、特にろ過器の生物ろ過に重点を置くことを説明しました。

今後の自然観察会でもいろいろな視点から霞ヶ浦の自然や環境に接するプログラムを企画したいと考えております。

参加者のみなさん、パートナーのみなさんありがとうございました。



環境活動推進課 福井正人



顕微鏡を使ってプランクトンの観察中です。



メダカによるミジンコの捕食を観察。



ワカサギ煮干しの胃を観察！



鳥のくちばしの模型で勉強！



底生生物の役割を学びます。



魚の飼育について説明しました。